高分子と市場開発

竹 田 政 民*

高分子工業製品は今日のわれわれの生活にきわめて大きな要素になってきていることは、10年前のデパートの売場を思い出してどれだけプラスチック、合繊の量と種類が現代の売場で増加したかを考えれば明白であろう。このような現象は、われわれが今住んでいる経済社会はきわめて流動的な生長段階に入っており、各種の新製品の出現によってわれわれの生活そのものが根底から変えられつつある時代であるためであり、高分子工業もその有力な動力源となっているにほかならない。高分子科学の研究者数の異常な増加もかかる経済的な要因を除外しては理解はむずかしい。

ところで、このような高分子新製品の創造と市場における生長がどのような経過で起こるものであるかということについての組織的な調査なり研究は、今のところは少ないように思われる。その要因として考えられるものは、高分子の科学と技術のすべての要素に資源、生産機構、流通機構、消費者の動向といったすべての経済的要因、さらにタイミングといわれる時間の因子などを考慮した多次元の方程式を解かなければならないためであろう。しかし電子計算機の力を借りて世界のエコノミスト達は、20年30年先の科学の経済社会が今日とどのようにかわって行くかの予測を始めている時代であり、われわれとしても、皆が興味をもっているが、まとめることのむずかしい上記の問題に着手すべき時期とも考えられたので、今般各方向の協力を得て、高分子学会内に市場開発委員会を発足した。

今後どのように進むかは、委員の内でこれから、討議が重ねられることになるが、今まで考えてきたことは従来知られている、ナイロン、ビニロン、など合繊の発達とか、塩ビ、合成ゴムなどの発達とかについてのケース、研究をもう少し一般的な形式にすることができかどうかといった問題とか、エコノミスト達の全体としての経済発達のモデル設定を高分子工業といった細かいモデル設定まで、引き直おすことができるかどうかといった問題である。後の方向では第1回の試みとして委員の1人である、経済企画庁の林経済研究所長の「将来の経済社会」という市場開発委員会で聞いて討論を行なった。そのとき、林委員は将来の日本の製造工業の戦略について若干ふれられたが、その中で私の興味を引いたのは資本節約労働消費の下級の紡織や雑貨などの製造工業は早く後進国へ移して、電子計算機工業などに代表されるような高度の科学技術を背景とした産業を生長されるべきというようなご意見であった。

今日の日本の高分子産業の中にはいまだにこのように早く後進国へもって行った方がと思われるものが少なくないと思われるが、これをスクラップにして後進国へ移設してしまうべきか、またこれになんらかの新しい要素を加えて高度の科学技術産業に育成できるかはきわめて重要な問題であり、多数の会員諸兄にとってきわめて身近な問題であると思われた。今後この委員会に多くの会員諸氏のご協力を願い、またご意見があれば私なり委員諸氏にお申出いただくことをこの際お願いしたい。

* Masatami TAKEDA 高分子学会企画委員会委員長・市場開発委員会委員長・
東京理科大学教授・理博